

マンツーマンでの高齢者スマホ教室

勝浦ゼミナール / 1・11

1.概要

2022年4月16日、30日の二日間にわたって鶴ヶ島市富士見市民センターで高齢者スマホ教室『富士見スマホ倶楽部』が行われた。勝浦ゼミナールの学生は受講者である高齢者の方々をサポートをするボランティアとして参加した。

まず最初に講師の星奈のぞみさんの話を聞く。そのあと受講者が自身のスマートフォンを操作しながら、わからないところをゼミ生がサポートする形の教室だ。

一日2コース構成で開催されたスマホ教室は、甘口・ちょい甘・ちょい辛・中辛の4コースが用意されており受講者は自分に合った難易度を選択することができる。



講師の星奈のぞみさんの説明を聞く受講者の様子

4つのコース

甘口

아이폰とアンドロイドの違い

ちょい甘

音声認識アプリ・LINEの基本編

ちょい辛

パスワード管理について

中辛

格安SIMカードについて

※下に行くほど難易度が高くなる



学生(左)がマンツーマンで相談に乗る様子

2.目的

勝浦ゼミナールは多文化共生をテーマに、様々な地域課題を地域の主体の連携によって解決を試みる実践的プロジェクトに取り組んでいる。

今回その一環として、高齢者スマホ教室『富士見スマホ倶楽部』にボランティアとして参加させてもらった。

普段の生活の中で若者である学生と高齢者が積極的にコミュニケーションをとることは少ない。スマホ教室のボランティアを通して相互理解が進むことで、年齢の違いや互いの理解不足によって生まれる“見えない壁”を崩していき、地域内で年齢関係なくコミュニケーションを取りやすくなることで地域が今以上に盛り上がるきっかけに繋がることを目的とする。



マンツーマンでの高齢者スマホ教室

勝浦ゼミナール / 1・11

3. 事前準備

今回開催された高齢者向けスマホ教室『富士見スマホ倶楽部』は、鶴ヶ島市富士見地域支え合い協議会が主催。講師に星奈のぞみさんを迎え開催した。鶴ヶ島市富士見地域支え合い協議会の山本恵男さんから勝浦ゼミナールにボランティアとして協力してほしいとお声掛けがあり、勝浦ゼミナールが参加するに至った。

当日のスマホ教室を円滑に進めるため、事前にLINE WORKS内で主催とゼミ生のグループを作り情報共有をしたり、顔合わせを兼ねてzoomでオンライン会議をセッティングした。オンライン会議を通して、多くのゼミ生がスマホ教室を開催することになった経緯なども理解することができた。

4. 当日の動き

スマホ教室が開始する1時間前に富士見市民センターに集合。まず、教室として利用する集会室にプロジェクターやイス、テーブルを設営するところから始まった。

開始時間が近付くと、ゼミ生は各テーブルに待機し受講者を待つ。受講者が受付を済ませると、あらかじめ名札が置かれたテーブルまでゼミ生が案内をする、という形をとった。

教室が開始すると、まず講師の星奈さんがプロジェクターを使いスマホの機能や受講者に挑戦してほしいことを説明する。そのあと受講者は各自のスマホを実際に操作し、わからないところや気になる点を隣にいるゼミ生に聞くという流れが生まれた。

当初は、ゼミ生と受講者の間にぎこちない空気が流れていたが時間を経つと笑顔があふれ笑い声が聞こえてくる教室になった。

5. まとめ

普段の生活の中ではあまり関わりがない高齢者の方々と短い時間ではあるが、しっかりとコミュニケーションを取りながら同じ目標に挑戦するという経験はなかなかできない。

今回のスマホ教室のボランティアを通して、同じ地域に生活する人との結びつきを強固にすることで地域での活動だけでなく、災害などの非常事態が起こった際に協力し合える土台になるのではないかと強く感じた。



4つの大きなグループに分かれグループワークも行った



学生(左)がスマホについて説明している様子



笑顔で写真に写る学生(両端)と受講者(真ん中)

